

# NARITA

NO. 52

# 市議会だより

発行/成田市議会 編集/成田市議会だより編集委員会 〒286-8585 成田市花崎町760 Tel 0476-20-1570(直通) Fax 0476-24-0336



▲久住地区一周駅伝大会スタートの様子。12月から1月にかけて、各地区で駅伝やマラソン大会が開催されています。(1月11日 久住公民館前)

## 12月定例市議会のあらまし

平成20年第4回定例市議会は、11月28日に招集され12月18日まで21日間の会期で開かれました。定例市議会の初日には、一般会計補正予算など26議案が上程されました。

一般質問は12月2日から4日まで15人の議員が登壇して行われ、4日には議案1件を同意し、5日からは各常任委員会、特別委員会が開かれました。

最終日の18日には上程された議案25件と発議案1件を原案どおり可決し、また、9月定例市議会から継続審査中の決算関係議案9件を認定し閉会しました。

### 主な内容

- ☆可決された議案の概要……P 2～4
- ☆審議案件一覧……P 3
- ☆特別委員会から……P 4～5
- ☆決算特別委員会の審査内容……P 5
- ☆一般質問から……P 6～12
- ☆コーヒータイトム……P 12

## 【12月定例市議会の日程】

期 日	内 容
11月28日(金)	本会議(開会、会期の決定、全議案一括上程)
12月2日(火)	本会議(一般質問)
3日(水)	本会議(一般質問)
4日(木)	本会議(一般質問、議案審議、議案質疑、委員会付託)
5日(金)	経済環境常任委員会
8日(月)	新清掃工場整備特別委員会 新駅・基幹交通網整備促進特別委員会
9日(火)	空港対策特別委員会
10日(水)	教育民生常任委員会
11日(木)	建設水道常任委員会
12日(金)	総務常任委員会
18日(木)	本会議(会議録署名議員指名、議案審議、閉会)



# 36議案を可決・同意・認定 中学校設置条例の改正や荒海共生プラザの 設置及び管理に関する条例の制定など

12月の定例市議会では、人事案件、条例の制定・一部改正6件、補正予算関係案件3件など26議案が審議され、いずれも原案どおり可決・同意されました。また、議員から提出された発議案1件も可決されたほか、9月定例市議会から継続審査中の平成19年度決算関係議案9件も認定となりました。

## ●可決された 議案の概要

上程された議案は、各常任委員会に付託され審査が行われた後、最終日の本会議で可決されました。

### 総務常任委員会

▼成田市荒海共生プラザの設置及び管理に関する条例を制定するについて

【内容】荒海地区に整備している航空機の騒音及び高度を表示するモニター、市民の健康増進

▼成田市消防署設置条例の一部を改正するについて

【内容】現在建設中の(仮称)公津消防分署の名称を成田市赤坂消防署公津分署と定め、平成

問 健康ルームの内容及び開館時間は、

答 トレーニング器具を配置し、住民の健康維持に努め、開館時間については、地元との協議により決定した。

▼(仮称)公津消防分署建設工事(建築工事)請負契約の変更について

【内容】建築に使用する鋼材類の価格が高騰したことに伴う、変更契約の締結について、議会の議決を求めるもの。

問 本条例改正に伴い、消防活動として一番遠い現場及び所要時間は、

答 下方、平方橋地先であり、所要時間は7分である。

▼(仮称)中台第二保育園新築工事(建築工事)請負契約の変更について

【内容】建築に使用する鋼材類の価格が高騰したことに伴う、変更契約の締結について、議会

【内容】職員が草刈機で飛散させた小石による車両の物損事故について、協議が整ったため、地方自治法の規定により議会の議決を求めるもの。

▼字の区域及び名称を変更するについて(公津西特定土地区画整理事業)

【内容】公津西特定土地区画整理事業の施行に伴い、事業区域内の字の区域及び名称を変更しようとするもの。

▼平成20年度成田市一般会計補正予算(第2号)

【内容】歳入歳出それぞれ6,362万円の増額補正を行うとともに、債務負担行為の追加を行うおうとするもの。

【主な質疑】

問 新清掃工場運転維持管理業務費の積算根拠は、

答 積算要領や業者見積もりを参考に、適切に算定した。



▲建設中の赤坂消防署公津分署

### 教育民生常任委員会

▼成田市中学校設置条例の一部を改正するについて

【内容】平成21年4月1日からの豊住中・成田中の統合に向け、所要の改正を行うおうとするもの。

【主な質疑】

問 居住者の減少に歯止めをかけるため、市営住宅等を建設するといった検討はされたのか。

答 市街化調整区域であり、仮に成田市の計画であっても立地要件が必要である。

▼成田市国民健康保険条例の一部を改正するについて

【内容】平成21年1月1日から、<sup>\*</sup>産科医療補償制度が創設され、保険料相当分の分娩<sup>わん</sup>1件当たり3万円が、被保険者の出産費用に転嫁されることが見込まれることから、被保険者の負担を軽減するため、出産育児一時金の支給額を現行の35万円から38万円に増額する改正を行うおうとするもの。

▼(仮称)中台第二保育園新築工事(建築工事)請負契約の変更について

【内容】建築に使用する鋼材類の価格が高騰したことに伴う、変更契約の締結について、議会



▲大栄B & G海洋センター

- の議決を求めるもの。
- ▼市有財産の取得について  
 「内容」生涯スポーツの場として整備中の(仮称)大栄野球場の用地を取得するにあたり、議会の議決を求めるもの。
- ▼指定管理者の指定について  
 (こすもす苑デイサービスセンター)
- ▼指定管理者の指定について  
 (のぞみの園)
- ▼指定管理者の指定について  
 (精神障害者授産施設あじさい工房)
- ▼指定管理者の指定について  
 (成田国際文化会館)
- ▼指定管理者の指定について  
 (久住体育館外1施設)
- ▼指定管理者の指定について  
 (印東体育館)
- ▼指定管理者の指定について  
 (大栄B & G海洋センター外3施設)

平成20年12月成田市議会定例会議案一覧

議案番号	件名	議決の結果
1	人権擁護委員の推薦につき意見を求めるについて (江波戸 秀記)	同意
2	成田市立中学校設置条例の一部を改正するについて	可決
3	成田市国民健康保険条例の一部を改正するについて	可決
4	成田市駐車場の設置及び管理に関する条例の一部を改正するについて	可決
5	成田市荒海共生プラザの設置及び管理に関する条例を制定するについて	可決
6	成田市公設地方卸売市場の設置及び業務に関する条例の一部を改正するについて	可決
7	成田市消防署設置条例の一部を改正するについて	可決
8	(仮称)中台第二保育園新築工事(建築工事)請負契約の変更について	可決
9	(仮称)公津消防分署建設工事(建築工事)請負契約の変更について	可決
10	市有財産の取得について((仮称)大栄野球場整備事業用地)	可決
11	損害賠償の額の決定及び和解について	可決
12	指定管理者の指定について(こすもす苑デイサービスセンター)	可決
13	指定管理者の指定について(のぞみの園)	可決
14	指定管理者の指定について(精神障害者授産施設あじさい工房)	可決
15	指定管理者の指定について(成田国際文化会館)	可決
16	指定管理者の指定について(久住体育館外1施設)	可決
17	指定管理者の指定について(印東体育館)	可決
18	指定管理者の指定について(大栄B & G海洋センター外3施設)	可決
19	指定管理者の指定について(十余三パークゴルフ場)	可決
20	指定管理者の指定について(中台運動公園外1施設)	可決
21	指定管理者の指定について(坂田ヶ池総合公園)	可決
22	指定管理者の指定について(三里塚記念公園外9・9施設)	可決
23	字の区域及び名称を変更するについて(公津西特定土地区画整理事業)	可決
24	平成20年度成田市一般会計補正予算(第2号)	可決
25	平成20年度成田市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決
26	平成20年度成田市介護保険特別会計補正予算(第1号)	可決
継20.9 14	平成19年度成田市一般会計歳入歳出決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 15	平成19年度成田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 16	平成19年度成田市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 17	平成19年度成田市公設地方卸売市場特別会計歳入歳出決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 18	平成19年度成田市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 19	平成19年度成田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 20	平成19年度成田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 21	平成19年度成田市簡易水道事業特別会計決算の認定を求めるについて	認定
継20.9 22	平成19年度成田市水道事業会計決算の認定を求めるについて	認定
発議案 第1号	専決処分事項の指定について	可決

▼指定管理者の指定について  
 (十余三パークゴルフ場)  
 「内容」平成21年4月1日から指定管理者による管理を行うに当たり、地方自治法第244条

の2第6項の規定により、その議会の議決を求めるもの。  
 ▼平成20年度成田市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)  
 「内容」事業勘定については、

歳入歳出それぞれ8,356万3千円の増額補正を、施設勘定については、歳入歳出それぞれ789万9千円の増額補正を行うもの。

▼平成20年度成田市介護保険特別会計補正予算(第1号)  
 「内容」歳入歳出それぞれ1億4,710万9千円の増額補正を行うもの。

## 経済環境常任委員会

▼成田市駐車場の設置及び管理に関する条例の一部を改正するについて

【内容】 指定管理者による管理を行っている東和田駐車場を、平成21年4月から直営管理へ移行するとともに、19年6月の道路交通法の一部を改正する法律の施行に対応した用語の整理及び駐車料金の明確化を図るため、所要の改正を行おうとするもの。

【主な質疑】  
問 東和田駐車場の管理を、指定管理者から成田市の直営に移行する理由は。  
答 観光駐車場としての性格上、利便性の向上やコスト縮減といった指定管理者制度を継続する効果は薄いと判断からである。

▼成田市公設地方卸売市場の設



▲直営管理に移行する東和田駐車場

置及び業務に関する条例の一部を改正するについて

【内容】 卸売市場法の一部が改正され、卸売業者が出荷者から收受する委託手数料の決定に関し、卸売業者が委託手数料の率を設定して事前に市場開設者である成田市に届け出る制度に改めるに当たり、所要の改正を行おうとするもの。

【主な質疑】  
問 卸売業者が委託手数料の率を設定することになり、率を引き上げることが懸念されるが。  
答 出荷者への混乱を避けるため、当分の間は現状維持されるものと考ええる。

## 建設水道常任委員会

▼指定管理者の指定について  
（中台運動公園外1施設）

▼指定管理者の指定について  
（坂田ヶ池総合公園）

▼指定管理者の指定について  
（三里塚記念公園外99施設）

【内容】 平成21年4月1日から指定管理者による管理を行うに当たり、地方自治法第244条の2第6項の規定により、それぞれ議会の議決を求めるもの。

【主な質疑】  
問 開発協会が引き続き指定管

理を受けることになり、従前よりもサービスの向上等、企業努力が求められるが。  
答 人件費の削減、開館時間の延長等により、利便性向上に努める。

問 大谷津運動公園は、北千葉道路整備事業に伴い、管理業務に変更が生じると思われるが。  
答 指定管理の最終年度に影響することが予想されるが、球場の芝生など最低限の管理は必要になることから、その点を精査

し委託料を定めていく。

## ●人事案件

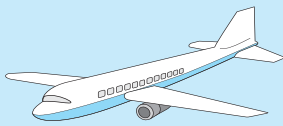
▼人権擁護委員の推薦につき意見を求めるについて  
（江波戸秀記）

【同意】

## ●発議案（議員提出の議案）

▼専決処分事項の指定について  
【可決】

# 特別委員会から



## 空港対策

### 特別委員会

執行部及び成田国際空港株式会社から2件の報告がありました。

「成田国際空港都市づくりについて」では、5月30日の成田国際空港都市づくり推進会議において決定された、基本構想に基づいて策定されている分野別

基本計画の中間報告について、概要の説明がありました。

「暫定平行滑走路の運用時間制限撤廃について」では、平成17年夏のダイヤから、午前6時30分から午後10時までとする運用制限を自主的に実施してきたが、航空需要がひっ迫していることから、利用者の利便性の向上のため、平成21年3月の夏のダイヤから、従来の運用時間である午前6時から午後11時まで

に戻すとのことでした。

## 【主な質疑】

問 基本計画だからかもしれないが、新たな内容がほとんど見られないように感じられるが。  
答 9市町それぞれの計画がベースにあり、共通ということになると掲上しづらい面はあるが、担当者レベルでは新しい考え方も出ている。

## 新駅・基幹交通網整備 促進特別委員会

執行部から4件の報告があり、成田新高速鉄道については、工事は全区間において急ピッチで進められており、新駅については、開業準備の一環として、（仮称）成田ニュータウン北の正式名称を決める手続きが進められているとのことでした。

（仮称）成田ニュータウン北駅周辺整備については、駅南側では、都市計画道路玉造線・湯川線並びに駅前広場事業用地の所有者との用地交渉を実施しており、その進捗状況に合わせ工事を進めていくとのことでした。また、駅北側では、市道松崎塙下湯川線と既存JR線との立体交差について、JR千葉支社と協議し、最適工法を検討中とのことでした。

一般国道464号北千葉道路については、成田新高速鉄道との一体整備区間では、鉄道工事を優先するため、道路用地を鉄道工事の作業ヤードに提供しながら、道路の地盤改良工事や橋梁工事の一部を実施しているとのことでした。北千葉道路単独区間では、道路設計説明会が各地区で開催され、今後、土地所有者と個別交渉を実施する予定であるとのことでした。

首都圏中央連絡自動車道については、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から、成田市域並びにその周辺の事業進捗状況について、また、東日本高速道路株式会社関東支社千葉工事事務所から、大栄ジャンクション整備について説明があり、茨城県境から大栄ジャンクション間は平成24年度の開通目標で、現在、用地買収、地盤改良工事、高架橋工事等を進めているとのことでした。

【主な質疑】

問 都市計画道路湯川線は用地買収が終了していないが、平成22年春までに完成できるのか。  
答 鉄道事業者、北千葉道路事業者との調整を図りながら、22年春の完成に向けて工事を進めている。

問 市道松崎場下湯川線と既存

JR線との立体交差部分は大型車輛が通過できる高さなのか。  
答 大型車輛も通過できる、4.5メートルの高さで協議している。

新清掃工場整備  
特別委員会

執行部から3件の報告があり、環境影響評価手続きについては、10月17日開催の千葉県環境影響評価委員会の内容の説明があり、主なものとして、建設予定地の近くの鉄塔について、いずみ清掃工場の解体工事について、建設予定地の中にある貴重な植物の保全対策について、地下水汚染の拡散の影響について、いずみ清掃工場の解体後の利用について等の報告がありました。

都市計画変更手続きについては、10月1日から2週間、素案の縦覧を行った結果と、11月2日に開催された公聴会の結果について報告がありました。

(仮称)成田市・富里市新清掃工場整備及び運営事業実施方針については、実施方針(案)を10月1日からホームページで公開し、寄せられた意見の主なものとして、建設中の事故・災害などがないよう十分配慮すること、成田・富里両市民への廃

棄物の削減、焼却可能廃棄物の区分、及びその削減に努力してほしい、事業者の選定にあたっては不正行為がないよう望む、等の意見をいただいたこと、ま

た、実施方針(案)は11月25日に正式に実施方針として決定したことの報告がありました。  
【主な質疑】  
問 建設予定地は残土で埋め立

てた土地だと思うが、地下水への影響はないのか。  
答 環境アセスメントで十分に調査しており、問題はない。

決算特別委員会

平成19年度決算関係9議案を認定

平成20年9月定例会市議会において付託され、継続審査中の平成19年度決算関係議案9件について、閉会中の10月28日、29日の2日間にわたり審査を行い、いづれも認定と決定しました。

審査報告書には、コミュニティバス等移動手段の検討や成田新高速鉄道の土屋駅設置など、決算特別委員会としての意見15項目を付している。市執行部は、これらの意見を真摯に受け止め、今後の行財政運営の執行に万全を期されることを強く望むものである。

ならない。よって、市執行部には、常にコスト意識と地球環境への配慮の視点を持って、各種事務事業の迅速確実な執行に最大限の努力をされることを期待するものである。

国の平成21年度予算の概算要求基準では、歳出全般にわたる徹底した見直しを行い、歳出の抑制と財源の思い切った重点配分を行うこととしており、また、

千葉県21年度の財政見通しは、依然として極めて厳しい状況になることが見込まれている。成田市の財政は、財政力指数

あつても、成田市のさらなる発展と市民生活のより一層の向上を図るため、18年度からスタートした総合5か年計画に盛り込まれた事業は着実に実施していかなければ



## 一般質問から



一般質問は、市長などに市政全般について疑問な点や方針などをたずねるものです。

12月定例市議会では15人の議員が質問に立ちました。

議会だよりに掲載されている内容は、会議録を抜粋したものです。詳しくは会議録をご覧ください。閉会后約2ヵ月で、市役所行政資料室、市立図書館、公民館図書室でご覧いただけます。

また、一般質問の様子は、市議会ホームページの議会中継でもご覧いただけます。

## 環境政策について

上田 信博 議員

問 成田市の環境政策について。

バイオマスは動植物から生まれた再生可能な有機性資源である。そのバイオマスの、発生から利用までが効率的なプロセスで結ばれた総合的な利用システムを有する市町村がバイオマスタウンであり、千葉県では5市町が公表されている。国は、平成22年度までにバイオマスタウンを300程度構築する政策目標を立てているが、現在のところ、構想を策定しているのは150強の市町村である。

バイオマスを活用すると、地

球上の二酸化炭素の増加量を抑えることができる。成田市でも、20年度から食用油の廃油を回収し、再生業者に売却して資源の循環化を図っている。

国も市も、資源循環型社会を形成して、特に地球温暖化の原因のあらゆる事象に対応していかなければならないわけだが、バイオマスタウン構想について、策定する考えはないか伺う。

答 バイオマスタウン構想が公表されると、その推進により新たな産業や雇用の創出、地域の活性化、地域発の温暖化対策、

循環型社会への移行の促進及び交付金等の国の支援などのメリットがあることを認識している。

成田市においても、成田山新勝寺や成田国際空港を擁する地域の特性から、多くの飲食店や食品工場等が存在し、それらから排出される食品廃棄物は、ほとんどは有効利用されずに処理されている現状にあることや、農作物の生産において排出される残さの有効活用等についても、さらなる取り組みの可能性があらることなどから、バイオマスの活用について調査・研究を進

## 調査書の公正化に向けた取り組みについて

雨宮 真吾 議員

問 中学校の調査書(内申点)の公正化に向けた取り組みについて。

①中学校の絶対評価における教職員、学校間の評価格差は、評定5だけを見ても、科目によって実に18・4倍の評価格差が存在しているという現状について、また、そもそも内申書が入試のために作成されているのではないという基本原則について、教育委員会の見解は。

②特色ある入学者選抜については、受験生は特色に合った受験

めることは重要な課題であると認識している。

しかしながら、バイオマスの利活用については、地域住民及び民間事業者、NPO等の関係団体との連携が必要不可欠なことや、その実現が可能な事業としての構築が重要かつ難しい課題である。成田市では、バイオマスタウン構想の策定には至っていないが、満たすべき基準に合致する事業の発掘や関係者間の連携の可能性について検討し、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

準備を強いられることになる。こうした準備への学校としての対応は。また、受験校ごと試験科目が異なるなど、制度の複雑化に伴う各学校の生徒・保護者への制度説明を果たしているのか。

答 ①評定値は、各学校の実態に即して、評価の考え方や評価基準、評価方法の工夫改善を進めていく中で、学校間で差が生じていると認識をしている。しかし、大きな差があることについては、生徒の実態や教員の指

導力、評価方法、評価基準のあり方など、様々な要因も考えられる。学校においては、教員間で共通理解を図り、評価の信頼性を高めていくことが、より一層重要になると考えており、教育委員会としても、評価のあり方については検討していきたい。評定値は、受験を目的としたものとは考えていないが、高等学校入学者選抜に使用されることについては、現行の受験制度上はやむを得ないものと考えている。

②各学校においては、1学年からの系統的な進路指導を進めるとともに、3学年では、より具体的な進路選択について進路説明会を開催したり、随時、三者面談を行ったり、さらには、高等学校が実施する体験入学への参加を奨励するなど、適切な進路選択ができるよう支援をしている。また、受験における面接や論文、独自問題などについても、全校体制で指導にあたっている。

今後、各学校においては、評価についての考え方を一層深め、進路指導体制の充実を図るために、校内研修等を通じて教員1人ひとりの力量を高めていきたいと考えている。

## 農業政策の取り組みについて

佐久間一彦 議員

**問** 農業政策の取り組みについて。

①現在、市内にどれくらい遊休農地があるのか。またそれらを改善するために、どのような取り組みを行っているのか。

②農業経営基盤の強化の促進について、年度ごとの農地流動化目標数値、件数、経営指標に関する具体的な取り組みについて伺う。

③農業の持つ多面的機能に着目し、農地を貴重な環境資源ととらえ、活用を図るため、どのような事業を展開し、農業の継続的発展を図ろうとしているのか。

④新しい成田市がスタートして3年目であり、成田市としても「食料・農業・農村基本条例」の制定を考える時期だと思いが、見解を伺う。

**答** ①耕作放棄地面積は、約474ヘクタール、耕作放棄地率は8.6%と全国平均より低い。耕作放棄地の解消については、担い手農家への利用集積を促進するなど、農用地としての有効利用を図るとともに、転作物物の作付の奨励など、地域の実態

や農業者の意向を十分考慮しながら取り組んでいく。

②平成18年8月、農業経営基盤強化促進基本構想の見直しを実施し、農地利用集積の目標面積を1,000ヘクタールとしており、20年3月末の実績は約844ヘクタールである。農業センター等を中心に、担い手農家

に対する農地の貸し借りを積極的に推進しており、着実にその成果を上げている。

③成田市においては、押畑、小浮及び前林第2の3地区で農地・水・環境保全向上対策に取り組んでおり、農業用施設の保全活動にとどまらず、幅広い活動に地域ぐるみで取り組んでおり、地域住民等の農業に対する理解とともに農業の継続的発展につながるものと考えている。

④国の農政改革が、19年度スタートしたところでもあるので、これらの動向を注視することも、合併後の変化の的確な把握に努めていきたい。

まずは、21年度から成田市食育推進計画の策定に向け取り組み、あわせて成田市農業経営基

盤強化促進基本構想の着実な推進を図っていく。

## 医療体制の充実と空港政策について

宇都宮高明 議員

**問** 市民が安心して暮らせる医療体制の充実について。

①循環型地域医療連携システムの構築に向けてどのような施策を行ってきたか。

②リハビリテーション施設設置及び周産期センターについて、成田市の取り組みは。

**答** ①健康づくりと福祉の連携が不可欠と考え、健康フロンティアモデル事業を導入した。21年度は、様々なテーマを決めて事業を展開していく。

②千葉県保健医療計画では対応医療機関はないが、回復期のリハビリを実施する医療機関は、市内の3病院が位置づけられている。周産期医療センターは、

成田赤十字病院が、その前段となる新生児センターの整備を進めている。

**問** 新型インフルエンザ対策について。

**答** マニュアルの作成を検討したい。また、研修会を提案するなど、市民にも積極的に関心を持ってもらえるよう努める。

**問** 20年間を見据えての新清掃工場・運営契約について。

①建設工事と20年間の担保等も盛り込んだ運営業務委託に関する契約を同時にすべきであると考えるが、成田市の考え方は。

②応募者の参加資格要件は。

**答** ①建設工事と運営業務委託の契約については、落札した民間事業者とは、基本契約・建設

工事請負契約・運転管理業務委託契約の3本の契約を締結したいと考えている。

②工事等に関する実績や能力、必要な資格を持った人材の配置などを規定する予定である。

**問** 成田市の今後の空港政策について。

①成田国際空港株式会社から取得について、成田市の考えは。

②空港都市づくり計画の進め方。

③発着回数30万回に伴う騒音対策・地元振興策を打ち出すときであると考えるが見解は。

**答** ①公費による購入の妥当性、市民への説明責任等を勘案しても非常に課題は多く、引き続き検討していきたい。

②現在は基本計画の作成を進めており、分野別の重点プロジェクトを抽出するため、3つの部会においても検討を行っている。

③騒音、地元対策等の推進は当然必要なことであると考える。空港と地域が共生・共栄できるように取り組んでいきたい。



▲健康フロンティアモデル事業のノルディックウォーキング

## 介護支援ボランティア制度と地域医療連携体制について

大倉富重雄 議員

**問** 介護・福祉について。

①第4期介護保険事業計画の進

捗状況・基本姿勢は。

②介護保険料はいくらか。財政

調整基金の取り崩し、所得段階の細分化の考えはどうか。

③介護支援ボランティア制度を導入する考えはあるか。

④認知症対策の更なる拡充を。

⑤福祉教育の一層の推進を。

答 ①介護保険に対する意向や要望などを踏まえながら素案づくりを進めている。また、高齢者が住みなれた地域で自立した生活ができることを目指し、計画を策定していく。

②これから試算する。基金は取り崩す考えでいる。細分化について、現在検討している。

③高齢者ボランティアの養成や、高齢者自身の社会参加活動を通じて介護予防に資するものであると考えており、実施している市の状況やその検証結果を確認しながら、調査研究していく。

④今後も認知症の予防からサポートまで総合的に取り組む。

⑤今後も学校内のすべての教育活動の中で推進していきたい。

問 地域医療連携体制について。  
①千葉県保健医療計画の地域医療連携について、どう受けとめているのか。

②医療崩壊への認識はどうか。

③成田赤十字病院への支援は。

答 ①市民一人ひとりが、人生の最後まで地域生活を全うでき

る仕組みを、医師会の協力を得ながら作っていきたい。

②県内でも銚子市立総合病院の閉鎖など、深刻な状況にあると認識している。今後、印旛保健

医療圏でこのような状況を発生させないために、病診連携や地域の中核病院である成田赤十字病院の機能充実の他、医療の適正受診の啓発を図るなどとして、地域医療が一層向上するよう支援していきたい。

③新生児センターの整備を支援すべく医療機器整備に補助する。

問 中小企業支援について。

### 市長の政治姿勢について

問 市長の政治姿勢について。

①資格証明書の交付による子どもの無保険を無くし、子育て応援の市政を。

②有害残土を許さず、住民同意規定をすべての特定事業に適用する残土条例の見直しなど、水環境を守る市政を。

③いずみ清掃工場の運転管理業務委託は、入札実施後3年間は随意契約となっているが、きっぱり中止をすべきではないか。

④ごみ溶融炉計画を見直し、二

緊急保証制度の周知徹底と申し込み状況はどうか。

答 ホームページ等で周知を図り、一カ月で62件と大幅に伸びている。認定の迅速化を図る。



▲中小企業への国の緊急保証制度がスタート

鴛澤 治 議員

酸化炭素削減、温暖化防止を。

答 ①厚生労働省からの通知を受け、中学生以下の子どもについては、申し出により短期被保険者証を交付することとし、対象世帯に11月19日付で通知した。並行して、全戸実態調査を行い、生活状況の把握や納付についての相談等をきめ細やかに

行う。  
②住民同意の有無にかかわらず、他法令に規定のない土質分析を

条例により義務づけているので、

これにより土壌汚染の監視を行い、水環境の保全など、残土埋め立て規制の本来の目的を達成していると考えている。

万が一、事故が発生した場合、事業者がすべての責任及び対応を図ることとなるが、事業者による事故対応が難しく、緊急な措置が必要な場合は、行政が対応を図ることとなる。

③いずみ清掃工場は、施設の老朽化が進んでいるため、業務に通じた技術者を確保する必要があり、また、施設の安定的稼働を図る必要があることから、「継続的委託業務の契約に関するガイドライン」により、19年

度の受託者と同額で随意契約したものである。

④新清掃工場は、計画の段階から二酸化炭素発生抑制を検討しており、削減が十分に可能であると

考えている。さらに発電や温水等の余熱利用を行うことで、購入する電力等が削減され、結果として二酸化炭素の発生抑制、コスト削減にも効果があるものとなる。ガス化溶融炉は、メタル・スラッグの再資源化、焼却灰の最小化など、全体として環境への負荷も小さくできるものと考えており、これまでの方針どおり、ガス化溶融炉の建設としていく。

### 国保税減免問題と行政の計画性について

油田 清 議員

問 国保税の減免問題について。

①景気悪化の動向に加え、被保険者の変化を中心とする国保自体の構造的変化を考えれば、生活保護基準に類する低所得者世帯の減免について考えなければならぬのではないかと。

②厚生労働省の要請を受けて、子どもがいる滞納世帯への資格証明書の発行について、成田市

の考え方とその対応は。  
答 ①成田市では、税率等が低

く抑えられ、大幅な軽減措置を講じているが、それでも納付が困難な世帯については、個々の実情を伺いながら、1件ごと

にきめ細やかに対応している。  
②厚生労働省からの通知を受け、中学生以下の子どもについては、申し出により短期被保険者証を

交付することとし、対象世帯に11月19日付で通知した。並行して、全戸実態調査を行い、生活状況の把握や納付についての



相談等をきめ細やかに行う。さらには、滞納者等が相談を受けやすくするために、庁内の連絡体制の整備を図るよう指示した。

**問** 行政の計画性について。

公津の杜複合施設や国際文化会館大ホールなど、これからの施設建設について、個別対応ではなく全体像を示し、庁内が連携した対応をとっていく必要があるのではないか。庁内の意思決定はどのように図られているのか。

**答** 国際文化会館等の公共施設の整備については、利用者の利便性や費用対効果、施設の位置付け等を改めて検討した結果と

して方針変更等を行ったものである。今後の新たな施設整備や建て替え、大規模な改修に際しては、庁内で十分に検討し、成田市としての方向性を示し、また、施設の複合化や多機能化も検討するとともに、地域特性や運営経費等の財政負担なども総合的に考慮していく。

**問** 加良部保育園の跡地利用についての考え方。

**答** 改修による効果が期待できないことから、建物の再利用は行わない方向で考えており、土地については、公共施設のあり方を検討する中で有効利用を図っていききたい。

## 成田新高速鉄道と問われる公教育について

海保 茂喜 議員

**問** 成田新高速鉄道は成田を再興できるのか。

① JR及び京成成田駅の現状と成田の空洞化について見解は。  
② 成田新高速鉄道に市民が期待するものについて。  
③ 市民のための成田土屋駅とまちづくりについて。

**答** ① 鉄道利用者や入り込み客数の推移から空洞化していると判断していない。

② 都心から成田空港への到達性向上のほか、県北西部等の交通便利性の向上や成田市と千葉ニュータウン地域の連携強化が期待されている。

③ 更なる発展を目指したまちづくりを推進するためにも、是非でも実現させなければならぬと考えている。

**問** 問われる公教育について。

① 開かれた教育委員会と学校支援の現状について。  
② 何のための誰のための学力テスト開示か。

**答** ① 教育委員会会議は原則公開とし、教育行政の透明性の確保に努めており、チェック機能としては、既に学校教育長期ビジョンを策定し、毎年その進捗管理について、検証・評価に取り組んでいる。教育委員会は合議制の執行機関であり、組織として学校や子どもたちへの支援を行っている。

② 全国の結果と個人の成績を比較できる個票や保護者向けのリーフレットなどを配布し、学習状況を理解することを通して、学習意欲の向上を図っている。

**問** 食と農をめぐる地域の新たな取り組みについて。

① 大転換期を迎えた食と農のまちづくりについて。  
② 地域の特性を生かしたブランド化や輸出戦略について。  
③ 農業再生に向けて、農地と農業を守る方策について。

**答** ① 今後は、食と農を支援する横断的な体制づくりを進めるとともに、食育推進計画の策定に向けて取り組みを進めていく。  
② 米と甘しょなどのブランド化に取り組み団体や、海外への販

路拡大を目指す事例もあるので、支援をしていきたい。  
③ 米生産調整の主力となる麦や大豆の生産拡大とともに、自給

## 国際空港都市づくりと食と農業について

神崎 利一 議員

**問** 国際空港都市づくりについて。

① 9市町プランはどのように。構想実現に向けての財源は。  
② 成田国際空港都市づくり推進会議の海外視察の内容は。

**答** ① 現在、基本計画の作成を進めており、3つの部会においても検討を行っている。  
② 今後、推進会議の中でも検討していかなければならないものと考えている。  
③ ドイツのミュンヘン空港と周辺自治体、イギリスのロンドン・ヒースロー空港を視察し、主に将来戦略、地域との関係等、また空港周辺自治体では、空港との関係、自治体の将来計画等について話を伺った。

センターの取り組み状況と今後のあり方について。

**答** ① 成田市では、日頃から高齢者の状況調査に努めており、さらに、平成20年度は敬老祝いの金の配付にあわせて高齢者実態調査を実施し、この調査結果をもとに、見守りを要する高齢者の把握や福祉サービスの提供及び援助を行っている。  
② 現在、策定中の第4期介護保険事業計画において、日常生活圏域の設定の見直しとともに、地域包括支援センターの配置に

**問** 地域における連帯感の醸成について。  
① 高齢者世帯の見守りの取り組みと施策の浸透について。  
② 各地域における地域包括支援



▲海外の2空港の視察を実施

についても検討している。

**問** 食と農業について。

①成田で生産されたものを成田で消費する成産成消の消費拡大をどのように考えているか。

②農業後継者の育成や農業振興策をどのように進めているのか。

**答** ①新鮮で安全・安心な地元農産物の消費拡大につながるこ

## 文化行政と景観づくり・風景づくりについて

内山 健 議員

**問** 文化行政について。

①今後検討されることになる大型公共文化施設のあり方と建設方針について考えは。

②新たな公共文化ホールが建設された後の市民や市民団体への芸術文化の育成支援について、どのように考えているか。

③行政組織を拡充し、行政が運営にかかわってはどうか。

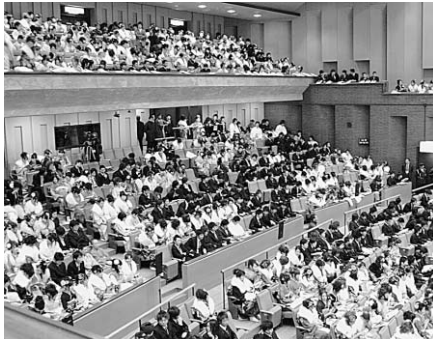
**答** ①国際文化会館の建て替えにより、プロの文化芸術を提供できるものから、市民が日常的に発表できる場、さらにはその中間的なものまで、全体的な構想を検討しなければならぬと考えている。また、中央公民館等を再編しての生涯学習センター構想についても検討していき

ととなり、フードマイレージ削減にも重要な役割を果たすものと考えている。機動的な推進体制と地元の農産物の供給・流通体制の整備等の支援をしていく。

②市内の農業青年団体が実施する親子体験農業教室等を支援し、担い手の育成・確保の一助としており、また、農地流動化促進等活動事業を実施している。

い。

②市民の能力や素質が遺憾なく発揮されるよう、サークル活動をはじめ物心両面にわたって支援していくことも大切だが、文化活動は個人にゆだねられる部分が多いため、行政としても何ができるか考えていきたい。



▲国際文化会館大ホール

③現在は、文化振興室で対応しているところだが、今後、十分検討していきたい。

**問** 景観づくりから風景づくりについて。

①景観づくりの手法は、多面的、総合的に市街地や農村地域も含めた風景づくりを積極的に誘導していく方向に転換をしていくべきと思うが見解を。

②美しい風景づくりを市民と行政で行っていくために、既存の制度を含めた新たな支援制度を制定する考えは。

③景観条例や規則を制定する考えは。

**答** ①都市景観だけでなく、豊かな自然風景を守り、貴重な景観資源を保全することが重要であり、これらを次世代へ継承するためには、地域・住民と一体の取り組みが必要と思っている。

②現在、表参道街づくり協議会への活動助成や緑化推進事業による花の苗の配布、森林保全団体育成事業補助金などの支援を行っている。新たな支援制度については、市民との協働による景観まちづくりを進める中で対応する。

③千葉県が予定している広域景観計画の策定の動向を見守り、研究していきたい。

## コミュニティバスの今後の運行形態と学校適正配置の進捗について

水上 幸彦 議員

**問** コミュニティバスについて。

①協議会の開催状況について、ルートごとの協議会をどのように考えているか。

②運行当初5年間の債務負担行為で予算措置をして運行を開始したが、債務負担行為が終わった後のルートごとの運行経費について。

③今後の運行形態について、定時運行の是非、乗り継ぎのあり方を伺う。

**答** ①交通会議は、コミュニティバス等の市民の足の確保、その他公共交通の利便性を図るため必要となる事項を協議することを目的に設置した。各地区の代表者が委員であることから、地区内の意見を集約したものを協議していく方向で設立したもので、現段階ではルートごとの交通会議の設置は考えていない。

②随時5年間の債務負担行為が終了していく中で、地域の実情

を踏まえたルートの見直しや運行経費について検討していく。

③乗り継ぎや起点バス乗り場の整備を含めた今後の運行方法については、利用者の利便性の向上が図れるよう研究していく。

**問** 学校の適正配置の進捗について。

①現在の統廃合の進捗状況。

②学校適正配置の計画を実施することで発生する必要経費、成田市の負担。

③統廃合計画から外れた学校について。

**答** ①豊住中と成田中との統合について、12月議会に提案させていた。久住第二小、東小学校区についても、引き続き、理解が得られるよう努力する。

②下総・大栄の統合小3校、公津の杜の新設中学校の4校の必要経費は約107億円で、国からの負担金・交付金が約21億円、地方債が約52億円、一般財源が約34億円と見込んでいる。大栄と下総のスクールバスの計画費は、4千万円前後となる。

③統廃合計画以外の学校については、スクールバスを運行する予定はないが、今後も児童・生徒遠距離通学補助事業を推進して、保護者の負担を軽減していきたいと考えている。

※食料の輸送距離。重量×距離で表し、値が大きいほど環境負荷も大きい

# 奨学金制度と 学校給食の食材の安全について

馬込 勝未 議員

**問** 市の奨学金制度について。

① 利子補給の対象の拡大、補助率の引き上げを。

② 貸与制度、給付制度の創設を。

**答** ① 成田市の制度は近隣の市に比べ充実していると思われる。

② 県や日本学生支援機構で行っている制度があるので、現在のところ考えてはいない。

**問** 学校給食の食材の安全について。

① 成田市での現況と、地場産、国内産の使用を。

② 公費による食材費負担を。

**答** ① 成田産を優先し、県内産、国内産と範囲を広げて購入することを基本としている。

② 食材費の増額分は、献立の工夫などにより、現在の給食費で賄っていけると考えている。

**問** 大栄野球場計画について、財政支出削減のため見直しを。

**答** 整備計画のスタンドは、メインスタンドのみで、内野・外野は芝生スタンドを考えている。夜間照明は、大谷津・中台と同等なもの、掲示板は、磁気反転

式を採用することになっている。

**問** 災害時要援護者避難支援制度について。

① 国民保護計画との切り離しを。

② 成田市としての役割は。

③ 自主的な取り組みへの支援を。

**答** ① 有事の際に災害時の制度を活用することはやむを得ないものと考えている。

② 広域的な災害時には、自助を基本として、共助が重要な役割を持つことから、制度を立ち上げた。

③ 状況に応じた支援体制の構築を図り、さらに支援する方の育成に努めていきたい。

**問** 地球温暖化防止対策について。

① 地球温暖化対策条例の制定。

② 総合的な削減計画の策定。

③ 成田市の体制の整備を。

**答** ① 県や他市の状況等も調査し、十分研究していきたい。

② 環境基本計画の中に地球温暖化対策地域推進計画の策定も盛り込んでいる。

③ 市の事業全体のバランスを考

慮しながら、検討していきたい。

**問** 成田新高速鉄道の環境保全対策について、サンカノゴイ等の現況と今後の対応は。

**答** 今後もヨシ原の整備に努めていくこととであり、工事実施に当たっては、極力影響を及ぼさないように努めていると聞いている。



▲造成された印旛沼のヨシ原

# 障がい者福祉の 推進と啓発について

青野 勝行 議員

**問** 障がい者福祉の推進と啓発について。

① 現在策定中の成田市総合保健福祉計画の、平成21年度を初年度とする6カ年計画においてアンケートを実施しているが、障がい者の方からはどのような問題提示があったのか。また、どのように対応するのか。

② 軽度発達障がいなどで療育手帳を申請し、判定により交付されなかったケースについては、本人や保護者に今後、どのような福祉的な支援をするのか。また、手帳の未交付者へ取得を促すなど、現状の把握に努めているのか。

③ 成田市としては、第4次千葉県障害者計画(素案)について、

どのように考え対応していくのか。

**答** ① アンケートでは、施策として重要度が高いにもかかわらず満足度が低く、優先して充実が求められる項目として、差別や偏見をなくするための福祉教育や広報活動の充実、働く意欲がある人への就労支援の充実、自宅での生活を支援する在宅福祉サービスの充実、サービス手続の簡素化などが挙げられている。

② 軽度発達障がいなどで療育手帳を申請し、判定により交付されなかったケースについては、本人や保護者に今後、どのような福祉的な支援をするのか。また、手帳の未交付者へ取得を促すなど、現状の把握に努めているのか。

③ 成田市としては、第4次千葉県障害者計画(素案)について、

この他にも、広く当事者や関係する方々の意見を伺い、計画づくりを進めている。

② 成田市では、療育手帳を所持していない場合においても、日常生活の状況等を調査させていただき、マザーズホームでの療育、生活指導などの児童デイサービスや日中一時支援、移動支援などの地域生活支援事業を利用いただいている。

また、何らかの介助が必要であるにもかかわらず、手帳を交付されていない方については、手帳の取得を勧めるほか、本人や保護者の意向等を踏まえ、地域生活支援事業などの福祉サービスを提供している。

③ 県計画素案では、乳幼児期から高齢期に至るまでの生活、余暇、就労などの多様なライフスタイルに即した支援施策などを位置付けており、成田市においても、地域の中で安心して自立した生活が送れるまちづくりを目指して、計画づくりを進めていきたいと考えている。

# 高齢者福祉と 成田空港平行滑走路について

堀川 洸 議員

**問** 高齢者福祉について。こすもす苑デイサービスセンター

の拡充について。また、デイサービス施設に、今、何が求められ

ているか。

**答** こすもす苑デイサービスセンターは、曜日によってはまだ定員に余裕がある状況にある。

下総地区には、デイサービスセンターが3カ所設置されており、地区内に限らず近隣のデイサービスセンターを利用することも可能であることから、今後利用者の希望に沿った利用ができるものと考えている。

また、平成18年の介護保険制度改正により、予防重視という観点から、食事や入浴の提供以外に、運動機能の維持・向上、栄養改善、口腔ケアへの取り組みが求められるようになった。

**問** 成田空港平行滑走路完成に伴う、発着回数の増加に対応した地域の存続についてどう考えるか。

**答** 空港容量の拡大に対応した騒音対策としては、騒防法については平成19年3月に、騒特法についても19年12月に、それぞれ騒音区域の線引きを変更し、現在、住宅の防音工事や移転が進められている。今後、航空機騒音被害のさらなる拡大が予測される場合は、これまでどおり、事前に騒音予測コンタマーや騒音対策等を地域に示し、了解を得てから進めていくこととなる。

いる。

**問** コミュニティバスの運行について、交通弱者を含む地域住民の交通網整備と利便性の向上への取り組みを。

**答** 下総地区においては、名古屋、高岡、名木の3方面を循環運行している下総循環ルートと、JR滑河駅と市街地を結ぶ水掛ルートが運行しているが、芙蓉邸街区については、民間路線バスが運行していたという経緯もあり、水掛ルートを芙蓉邸街入



▲JR滑河駅が基点の下総循環ルート

口まで運行してほしいとの要望がある。今後も、コミュニティバスの利便性向上については、引き続き検討していく。

## 予算編成過程の公開と 入札をめぐる諸問題について

足立満智子 議員

**問** 平成21年度予算編成方針と編成過程の公開について。

**①**この間の経済危機、景気低迷が、平成20、21年度成田市財政に与える影響、及び21年度予算編成にあたって、編成方針、税収の見込み、予算要求ベースでの収支状況、目白押しの大規模事業への影響は。

**②**予算は市民のもの。行政運営の透明性や市民参加を進めるために、予算編成過程の公開を。

**答** ①燃料費や鋼材類の高騰による増額の変更契約などの影響が出てきており、21年度も市税

収入だけを採り上げると、厳しい状況になるものと考えている。21年度の当初予算は、市民ニーズを的確に反映した効率的・効果的な予算を編成する旨の方針を示したところであり、要求額ベースでは、約78億円の財源が不足する状況で、市税の見込みは、前年当初比で約3億円の減である。大規模事業への影響については、財政調整基金等を有効に活用することで、着実に実行できるものと考えている。

②混乱を生じないような公開の手法について検討していきたい。

**問** 入札をめぐる諸課題について。

過去半年間に新聞報道された成田市関連の談合情報や市内業者の認定基準、さらに加良部仮市営住宅の発注での偽装随意契約を疑う指摘などについて、経過と対応、及び成田市の考えは。

**答** 平成20年度の2件の談合情報については、事情聴取の結果からは談合の事実は認められなかった。市内業者の認定基準については、市内・準市内の認定基準を明確に示すことにより、加

良部仮住宅については、最も適した製品を設計に反映し一般競争入札に付したもので、新聞報道による偽装随意契約ではない。

**問** DVは男女共同参画社会の実現にとって克服すべき重要課題。DV防止法改正に伴い、相談・支援センターの設置を。

**答** 当面は、ちば県民共生センター等との連携や、市民生活相談等に対応するとともに、様々な悩みを相談できる体制の充実について、今後の課題として捉えていきたい。

## コーヒー タイム



人間は物々交換の時代を経て交換手段として、貨幣を發明しました。しかし、貨幣はいつの間にか株・証券という投機の対象として姿を変えてきました。そして、实体经济から遊離して膨張し、虚構の経済を創りあげ世界を混乱に陥れています。他方で、実際に物を作り出す製造業での雇用が深刻になっています。手段が目的化され、目的

が手段のために犠牲になった現象がみられます。

政府や地方自治は、効率化を常に考えなければなりません。その目的を見失うと役所のための役所となつてしまいます。「住民の福祉の増進を図ること」という立場を、あらためて認識していきたいものです。K・Y

3月定例会市議会は、2月20日(金)開会予定です。  
☆☆☆☆☆  
「成田市議会だより」についてのお問い合わせは、市議会事務局へ。  
電話(20)1570直通  
ファクス(24)0336  
ホームページ  
成田市議会 検索